



東海大学望星技術士会 会報

令和3年(2021)年3月 第5号

【目次】

*ご挨拶

東海大学望星技術士会 会長挨拶 川上 哲太郎	1
望星技術士会に期待すること 東海大学工学部土木工学科教授 梶田 佳孝	3
§1. 令和2年度東海大学望星技術士会の活動概要	4
§2. 令和2年度望星技術士会総会報告	6
§3. 令和2年度学生へのリモート講義開催報告1(建設系)	7
令和2年度学生へのリモート講義開催報告2(建築系)	10

*会員からの便り

技術士を目指す技術者へ 齋藤 浩之	12
東海大学工学部原子力工学科をめざしたもの 佐々木 隆博	13
技術士事務所として仕事をする 星崎 紀一	15

*会員インタビュー

吉田前会長とのインタビュー 畑 恭子	16
--------------------	----

*会員の自己紹介

19

*連絡事項

1. 会員の皆様へお願い	24
2. 東海大学望星技術士会 今後の予定	24
3. 技術士制度の変更等	25
4. データで見る会員情報	26

*役員紹介コーナー

28

*編集後記

29

東海大学望星技術士会 会長挨拶 - 新年度を迎えるにあたって 大学近況報告 -

新年度を迎えるにあたり、会員の皆様一言ご挨拶を申し上げますとともに、大学の近況などについてご報告させていただきます。

東海大学望星技術士会は、平成 27 年（2015 年）11 月に技術士資格を有する東海大学卒業生の同窓会組織として設立されました。本会の設立ならびに活発な活動にあたっては、諸先輩方の多大なご努力と熱意ある活動によるところが大きく、その功績は計り知れないものであると感謝申し上げる次第であります。

本会の初代会長は、東海大学副学長、工学部長を務められた吉田一也先生がご就任され、令和 2 年（2020 年）5 月の総会まで精力的に会長職を務められました。令和 2 年度総会は、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い開催することができず、残念ながら書面による総会審議となってしまいました。

令和 2 年度より、2 代目会長として小職が微力ながらその任を担うことになり、誠に身の引き締まる思いであります。私は、1957 年生まれ、1980 年海洋学部海洋土木工学科卒業、1988 年大学院海洋学研究科修了、その後、山梨大学工学部、大成建設を経て 1993 年東海大学に奉職し現在に至っております。専門は、土木工学の構造力学、耐震・防災工学などですが、ここ十年近くは大学の管理運営に携わることが多く、教育研究から遠ざかっているのが現状となっております。

技術士については、会社勤めの時期に技術士の取得に向けた社内研修を受けましたが、恥ずかしながら技術士試験の受験までは至らずとなってしまいました。しかしながら、技術士の資格の重要性は、会社時代の経験からも大学教員となった後も認識はしておりました。建設・土木業界においては、土木施工管理技士、建築士、測量士、そして技術士といった資格は、工作上重要なものであり、その中でもコンサル業務に携わる者にとって

望星技術士会
会長 川上哲太郎
東海大学海洋学部
教授
学長補佐 工学博士



技術士は必須の資格であると、学生には機会のあるごとに説明をしておりました。実際、私の先輩方は勿論のこと、後輩や教え子の方々と卒業後に同窓会などで再会した際、技術士の肩書が書かれた名刺を頂く機会が増えてきたと感じており、卒業生の活躍を大変嬉しく思っております。

さて、昨年令和 2 年 1 月から始まった新型コロナウイルス感染症の蔓延は、現在、第 3 波(原稿執筆時)に至って収まる気配はなく、世界中を恐怖と混乱に陥れており、本会においても総会や学生との交流活動、会員相互の親睦活動の中止など、大きな制約を余儀なくされております。このような状況の中、役員・会員の皆様方のご努力によって、昨年 12 月から本年 1 月の期間 3 回にわたって、工学部土木工学科と建築学科のご協力を得て、両学科の学生を対象に、業界に関することや技術士に関することなどをテーマに 7 人の会員の方々によるリモート講義を実施致しました。学生の反応はもう一つであったと報告を頂いておりますが、このような活動がコロナ禍においても継続的に繰り返し行うことが本会の趣旨に沿うものであり、土木建築以外の分野を含めた今後の展開に大いに期待するところであります。

東海大学創立者 松前重義 博士は、逓信省技官時代に、文官と技官との立場の差に違和感を持ち、正しい思想をもった科学技術者の教育育成と科学技術の発展を目指して、本学を創立したことは皆様ご存じのことと思います。このような建学の源流を持つ本学の卒業生のなかから、数多くの

方々が技術士資格を取得し、社会で活躍することは、技術者の社会的評価の向上におおいに貢献しているといえます。そして本会の活動が、本学卒業の技術者及び在学生の今後の飛躍の支えとなると確信しております。

ここからは、大学の近況について簡単にご報告をさせて頂きたいと思っております。まずコロナ禍における大学の状況ですが、昨年は、3月の学位授与式（卒業式）、4月の入学式ともに式典の開催を見送らざるを得ない状況であり、学生の皆さん並びに保護者の方々には、大変残念な思いをされたものと思っております。さらに、4月以降春学期の期間中は、基本的に授業は遠隔授業となり、大学への入構も大きく制限され、部活動などにも大きな影響がありました。遠隔授業導入時には、大学側も学生側も十分な準備期間が取れず、手探り状態でのスタートとなり、種々のトラブルや課題が顕在化した時期でもありました。秋学期以降は、遠隔授業システムも整備される中、対面授業の一部再開も始まりつつあります。今後の新型コロナウイルスの感染傾向を注視しながら、教育研究活動を適切に進めていきたいと考えております。

現在東海大学では、2022年度に「日本まるごと学び改革」と称して、全キャンパスの学部改組改編を計画しております。本学では初の教育学系学部として児童教育学部を、工学部を再編し建築都市学部を湘南キャンパスに設置します。

また、東京高輪、渋谷（代々木）校舎に、社会科学系学部を集約し、新たに経営学部と国際学部を設置します。静岡（清水）キャンパスでは、海洋学部を再編するとともに人文学部を設置し2学部体制とします。九州キャンパスでは現行の学部を再編し文理融合学部を、2016年熊本地震で甚大な被害を受けた農学部は、新たに熊本空港に隣接した東海大学宇宙情報センター敷地を利用した臨空校舎を、2020年12月に建設を開始し、本格的な再始動を図る計画となっております。2022年度大学学部・学科・専攻の詳細については、右の表をご覧ください。

最後に、本会ならびに会員の皆様方のますますのご発展をお祈りし、新年度にあたってのご挨拶とさせていただきます。

2022年度 学部・学科・専攻			
学部	学科・専攻	定員	校舎
湘南キャンパス/湘南校舎			
教養学部	人間環境学科	120	
	芸術学科	70	
児童教育学部	児童教育学科	150	
情報理工学部	情報科学科	100	
	コンピュータ応用工学科	100	
	情報メディア学科	100	
工学部	航空宇宙学科	90	
	航空宇宙学専攻	50	
	航空操縦学専攻	140	
	機械工学科	140	
	機械システム工学科	120	
	電気電子工学科	80	伊勢原
	医工学科	100	
建築都市学部	建築学科	240	
	土木工学科	100	
体育学部	体育学科	120	
	競技スポーツ学科	170	
	武道学科	60	
	生涯スポーツ学科	120	
文学部	文学・レジャーマネジメント学科	70	
	文明学科	60	
	歴史学科	50	日本史専攻
		50	西洋史専攻
		30	考古学専攻
文化社会学部	日本文学科	90	
	英語文化コミュニケーション学科	90	
	アジア学科	70	
法学部	ヨーロッパ研究学科	70	
	北欧学科	60	
	文芸創作学科	60	
	広報メディア学科	100	
	心理・社会学科	90	
健康学部	健康マネジメント学科	200	
理学部	数学学科	80	
	情報数理学科	80	
	物理学科	80	
	化学科	80	
湘南キャンパス/伊勢原校舎			
医学部	医学科	118	
	看護学科	95	
東京キャンパス/高輪校舎			
情報通信学部	情報通信学科	240	
	観光学科	200	1-2 湘南
	経営学部	230	3-4 高輪
国際学部	国際学科	200	
東京キャンパス/渋谷校舎			
政治経済学部	政治学科	200	1-2 湘南
	経済学科	200	3-4 渋谷
静岡キャンパス			
人文学部	人文学科	180	
海洋学部	海洋理工学科	130	海洋理工学専攻
		20	航海学専攻
	水産学科	120	
	海洋生物学科	80	
九州キャンパス/熊本校舎			
文理融合学部	経営学科	130	
	地域社会学科	100	
	人間情報工学科	70	
九州キャンパス/臨空校舎			
農学部	農学科	80	
	動物科学科	80	
	食生命科学科	70	
札幌キャンパス			
国際文化学部	地域創造学科	110	
	国際コミュニケーション学科	80	
生物学部	生物学科	75	
	海洋生物科学科	75	
		2022年度入学定員合計	6863

望星技術士会に期待すること

東海大学工学部土木工学科の学科長をしております梶田と申します。令和元年度総会にお招きいただき、会員の皆様方と意見交換ができ、有意義な時間を過ごせました。より技術士の重要性を感じることができました。ありがとうございました。

昨年度末から新型コロナウイルス感染症拡大により、皆様の仕事にも大きな影響があったかと思いますが、大学も大きな影響を受けました。突然、オンライン授業をすることになり、資料の準備、授業の方法、学生が授業内容を理解しているかどうかの確認など、手探り状態ながら、様々な新たな経験をし、なんとか授業をすることができました。

さて、会員の皆様もご存じのとおり、土木工学科の建設系にとって、技術士は非常に重要であり、特にコンサルタント業務では必要な資格であるのですが、まだまだ学生にはその良さが理解されておられません。

土木の学生に考えられる将来の就職先を聞いてみますと、多くの学生はゼネコン、技術系公務員、鉄道・道路系の会社をあげ、建設コンサルタント会社については、ある程度知っているのですが、どのような仕事をするのかなどイメージが湧きにくいようです。

また、低学年時の学生の身近な資格としては、建築士、測量士、土木施工管理技士などがあげられます。ただ、ご両親が建設系の会社に勤めている学生であれば技術士を知っている場合もあります。実際に今年大学院2年生の学生が、学部生2年次に技術士第1次試験を受験し、合格しております。あとは、高学年の大学院1年生で、少しは時間が取れるため、何人かがグループで一緒に勉強しながら、技術士第1次試験を受験し、合格している学生もいます。

学科としては、建設業にとって、技術士がどれだけ重要な資格なのかを低学年から理解してもらい、受験をしてもらうかが課題となっています。

梶田 佳孝

(かじた よしたか)
東海大学工学部土木工学科
教授



建設業界の内容をより低年のうちに知ってもらおうと2年次から建設関連の各種の会社の方に来ていただき、各社の説明をしていただく授業を行っています。今回は、技術士とは何かを知ってもらおうと望星技術士会のご協力のもとに、2020年12月に2回にわたり、建設業界の就職に向けた情報提供をゼネコン、コンサル、建築設備の各立場から講演いただくとともに、技術士制度と第1次試験受験に向けてのアドバイス、さらに、前述の2年生で第1次試験を合格した山西君に第1次試験受験体験談を話していただきました。

2回とも講義時間100分をフルに使って、技術士の魅力を講義していただきました。ZOOMを使ったオンラインでのライブ講義でしたので、講義後のライブでの質問もなく、学生の反応がよくわからず心配をしていました。しかし、講義後に実施したアンケートでは、技術士に興味があった、受験してみたいなどの意見が多くありました。これは、実体験のお話を聞くことで、我々教員が話すよりも、身近に感じることもできたことなど、今回の企画は成功したのではないかと考えています。

次年度も望星技術士会の会員の方々のご協力をいただきながら、是非とも、対面での学生との交流などができればと思っています。

望星技術士会では、多くの様々な分野の会員の方がおられ、建設系以外の方々と交流することで仕事の幅や視野が広がるのではないかと考えています。これらの交流を通じて、多くの技術士が生まれ、望星技術士会の活性化にも寄与できればと思っています。

今後とも土木工学科へのご支援をお願いするとともに、望星技術士会の益々の発展を祈念しております。

§ 1 . 令和2年度東海大学望星技術士会の活動概要

1 役員会の開催（10回）

第1回

開催日：令和2年6月27日

場所：東海大学代々木キャンパス

出席者：常任幹事6名、幹事5名、計11名

主要議題

- ◆ メール総会の結果について
- ◆ 年間スケジュールの見直しについて
- ◆ その他

第2回

開催日：令和2年7月18日

場所：東海大学代々木キャンパス

及びZOOMによるリモート会議

出席者：常任幹事5名、幹事7名、計12名

主要議題

- ◆ 本年度の活動について
- ◆ 外部活動への対応について
- ◆ 会報の構成について
- ◆ その他

第3回

開催日：令和2年8月22日

場所：ZOOMによるリモート会議

出席者：常任幹事7名、幹事6名、計13名

主要議題

- ◆ 役員会執行体制の分業化
- ◆ 本年度の活動について
- ◆ 会報の作成について
- ◆ その他

第4回

開催日：令和2年9月26日

場所：東海大学代々木キャンパス

出席者：常任幹事4名、幹事5名、計9名

主要議題

- ◆ 役員会執行体制の分業化の確認と稼働に向けて
- ◆ 年間活動計画について
- ◆ 湘南キャンパス建設系学科の学生への技術士制度等情報提供活動について
- ◆ その他

第5回

開催日：令和2年10月24日

場所：ZOOMによるリモート会議

出席者：常任幹事6名、幹事4名、計10名

主要議題

- ◆ 各委員会の活動方針
- ◆ 建設系学生へのリモート講義について
- ◆ 会報の構成
- ◆ その他

第6回

開催日：令和2年11月28日

場所：ZOOMによるリモート会議

出席者：常任幹事6名、幹事7名、計13名

主要議題

- ◆ 会報編集について
- ◆ 土木工学科・建築学科の在学生へのリモート講義について
- ◆ ホームページの改善について
- ◆ 活動資金の確保について
- ◆ 会員名簿の活用について
- ◆ その他

第7回

開催日：令和2年12月19日

場所：ZOOMによるリモート会議

出席者：常任幹事6名、幹事7名、計13名

主要議題

- ◆ 土木工学科リモート講義の報告
- ◆ 会報編集作業の報告

- ◆ HP 改善・グーグルフォーム運用、会員名簿の活用について
- ◆ 活動資金の確保について
- ◆ 本会の同窓会としての位置づけについて
- ◆ その他

第 8 回

開催日：令和 3 年 1 月 23 日

場所：ZOOM によるリモート会議

出席者：常任幹事 7 名、幹事 7 名、計 14 名

主要議題

- ◆ 土木工学科・建築学科リモート講義の報告
- ◆ 会報編集作業の進捗状況・課題について
- ◆ 令和 3 年度総会の開催について
- ◆ 活動資金の確保について
- ◆ 入会申込みグーグルフォーム運用、会員名簿の活用について
- ◆ その他

第 9 回

開催日：令和 3 年 2 月 27 日

場所：ZOOM によるリモート会議

出席者：常任幹事 6 名、幹事 4 名、計 10 名

主要議題

- ◆ 令和 3 年度総会の開催について
- ◆ 活動協力金・寄付金について
- ◆ 名簿管理の体制について
- ◆ 会報編集作業について
- ◆ その他

第 10 回

開催日：令和 3 年 3 月 27 日

場所：ZOOM によるリモート会議

出席者：常任幹事 5 名、幹事 4 名、計 9 名

主要議題

- ◆ 令和 3 年度総会について
- ◆ その他

※ 令和 2 年 4 月と 5 月は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止。

※ 各打合せの内容は、本会のウェブサイト上で議事録が公開されています。

2 行事

2-1 定期総会の開催（メール総会による開催）

令和元年度活動実績報告、令和元年度会計報告、会計監査報告、令和 2 年度役員選任、令和 2 年度活動計画（案）及び予算計画（案）の承認

※ 令和 2 年 4 月 8 日配信、5 月 16 日締切、会員 54 名の返信（承認）があった。

2-2 湘南キャンパス工学部土木工学科・建築学科のリモート講義を担当

① 令和 2 年 12 月 16 日（水）

土木工学科第 1 回目、「建設業界の就職に向けた情報提供」（ゼネコン、コンサル、建築・建築設備）

② 令和 2 年 12 月 23 日（水）

土木工学科第 2 回目、「技術士制度と第 1 次試験」、「技術士第 1 次試験受験経験談」

③ 令和 3 年 1 月 14 日（木）

建築学科「建設業に関する概略説明」、「建築設備業界について」、「技術士制度の概略説明」

2-3 望星技術士会会報第 5 号発行

令和 3 年 3 月 31 日 とりまとめ

3 その他

大学技術士会連絡協議会の幹事校に就任

§ 2 . 令和 2 年度望星技術士会総会報告

令和 2 年度 定期総会は、令和 2 年 5 月 16 日（土）に霞が関ビル（東海大学校友会館）で開催することを予定しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止という観点から、実施は困難と判断し、今年度に限りメールによる総会とさせていただきます。

会員の皆様に対しましては令和 2 年 4 月 8 日資料等配信し、5 月 16 日締切ましたところ、会員 54 名の方から返信をいただき、議案は承認されました。

承認されました議案は、以下の通りです。

< 審議事項 >

第 1 号議案 令和元年度 活動実績報告の件

第 2 号議案 令和元年度 会計報告 会計監査結果報告の件

第 3 号議案 令和 2 年度 役員選任の件

第 4 号議案 令和 2 年度 活動計画（案）及び
予算計画（案）の件

なお、第 3 号議案で選任されました令和二年度の役員は、次の通りです。

令和 2 年度望星技術士会役員

会長	川上 哲太郎(新任)
副会長代表	森 修次
副会長	笠原 勉
常任幹事(事務局長)	齋藤 寛
常任幹事(会計)	平野 滋
常任幹事	綿貫 啓
常任幹事	永井 和典
常任幹事	庄司 大介
幹事	太田 芳雄
幹事	星崎 紀一
幹事	畑 恭子
幹事	中島 輝正
幹事	久一 博世
幹事	今村 均(新任)
幹事	圓山 裕史(新任)
幹事	清水 郎(新任)
幹事	桜井 裕一(新任)
顧問	神藤 典一
顧問	和田 洋六
会計監事	中村 憲一

§ 3 . 令和2年度 建設系学生へのリモート講義 開催報告

事務局常任幹事 庄司 大介

1. 日程 :

令和2年12月16日(水) [第1回]

令和2年12月23日(水) [第2回]

2. 時間 :

17:15~18:50(5時限目)

3. 場所 :

東海大学湘南キャンパス

19号館542号(土木工学科第2実験室)

4. 参加者 :

・東海大学教員:梶田教授,三神教授

・東海大学学生:74名[第1回],80名[第2回]

・望星技術士会:齋藤氏,森氏,庄司

今村氏,永井氏[第1回のみ]

太田氏,山西氏[第2回のみ]

5. 概要

本学学生に技術士資格の有用性を知ってもらい、より多くの学生に技術士補、将来的には技術士を目指して貰うことを目的として、学生への講義を行うことを大学側に提案した。そうしたところ、土木工学科の梶田教授より、土木工学科の2年生を対象とした、2日間合計2コマの「土木基礎ゼミナール入門ゼミナール2」の講義を行うことのできることを頂き、実施に至ったものである。

6. 第1回講義(12月16日)

リモート講義当日、出席する望星技術士会のメンバーで東海大学前駅に集合し、学生時代を懐かしみながら夕暮れに染まる大学へと歩を進める。出席者の平均年齢が高いこともあり、道中の心臓破りの坂に建設されたエスカレーターに感嘆するとともに、店舗の移り変わりが多きことにも時代の経過を感じた。湘南キャンパスに到着するも、新型コロナの影響で大学は基本的にオンライン授業がメインであり、学生の多くは学校に來れない状況であり、学内も以前に來たときのような賑わいがなく、かなり閑散とした感じであった。我々も入口での検温・記名などを行う必要があった。

土木工学科が入る19号館に到着し、土木工学科の梶田教授に挨拶を済ませ、リモート講義する

場所である、542号室(土木工学科第2実験室)に入る。



【写真1. 東海大学駅前】



【写真2. 湘南校舎噴水池・1号館を望む】



【写真3. 湘南校舎19号館】

部屋にはリモート講義用のPCおよびスクリーンモニターが用意されていた。そこに講義担当者が事前作成した講義用パワーポイントデータを取り込み、準備完了。そして、予定時刻の17:15になり、講義開始となった。第1回講義の順序及び概要は以下の通り。

【17:15～17:20】

梶田先生より「講義の趣旨」の説明および三神先生より「講義受講時の留意事項」の説明。

【17:20～17:30】

望星技術士会齋藤氏より、「望星技術士会および今回の講義概要について」の説明。

【17:30～17:55】

同会今村氏より、「ゼネコン業界での必要資格および実際に体験した業務(老朽化護岸の環境共生護岸への造り替え等)」の説明。

【17:55～18:20】

同会庄司氏より、「建設コンサルタント業界の状況・必要資格および実際に体験した業務(東日本大震災で被災した河川構造物の災害復旧関連業務等)」の説明。

【18:20～18:45】

同会永井氏より、「建設業(建築系)の仕事内容・施工管理・建築生産体制および建築と設備等」の説明。

【18:45～18:55】

質疑応答

※授業終了後、講義を聴講した学生が出欠確認と合わせて、追加質疑事項を提出した。



【写真4. 今村氏の講義風景】



【写真5. 庄司の講義風景】



【写真6. 永井氏の講義風景】

7. 第2回講義(12月23日)

講義までの準備、および講義の流れは第1回で要領を得たこともあり、滞りなく進んだ。なお、講義時は第1回目と同様であるが、学生側の画像はデータ容量の関係から切った設定としており、こちら側からは学生の表情を伺うことは出来ない状態での講義進行となった。第2回講義の順序及び概要は以下の通り。

【17:15～17:20】

梶田先生より「講義の趣旨」の説明および三神先生より「講義受講時の留意事項」の説明。

【17:20～17:30】

望星技術士会齋藤氏より、「第1回講義時の質疑事項に対する回答」の説明。

【17:30～18:10】

同会太田氏より、「技術士制度及び一次試験受験に向けて(資格取得のメリット、技術士制度、技術士試験等)」の説明。

【18:10～18:45】

同会山西氏より、「技術士第一次試験体験記(受験の動機, 受験による効果, 勉強方法等)」の説明。

【18:45～18:55】

質疑応答



【写真 7. 太田氏の講義風景】



【写真 8. 山西氏の講義風景】

8. 講義に対する学生からのコメント

講義に対する学生からのコメント(感想・質問・意見)を表1にまとめた。

第1回講義内容は、主に各業界の紹介や技術士の活用についてであったことから、技術士に関する内容はもとより「仕事内容が分かった」、「就職先を決めることに役立った」などのコメントが多く見られた。

一方、第2回講義は技術士受験内容や技術士補の合格体験といった内容であり、「勉強方法・参考書が分かった」、「参考になった」という受験に直結したコメントが多かった。

【表 1. 学生からのコメントまとめ】

第1回講義(12/16)	
コメント数	コメント(感想・質問・意見)
17	技術士一次試験を受験しようと思った
14	その他感想・質問
13	技術士の資格の重要性が分かった
10	各分野の仕事内容が分かった
8	就職先を決めるのに役に立った
7	講義ありがとうございました
7	参考になった・ためになった
5	技術士一次試験の勉強方法・参考書を教えてほしい
第2回講義(12/23)	
コメント数	コメント(感想・質問・意見)
29	勉強方法・参考書が分かった
19	参考になった・ためになった
15	技術士の資格の重要性が分かった
14	技術士一次試験を受験しようと思った
12	その他感想・質問
7	講義ありがとうございました

※1名で複数のコメントを記載する人もいるため、出席者とは合わない。

9. まとめ・感想

今回、望星技術士会として、初めて学生への技術士資格についての講義を行うこととなった。しかし、リモートでの実施であることから、学生の顔も写らない画面に向かって説明を行う形であり、学生の感触が得られず、やりやすい環境とは言えない状態であった。

それでも、学生からのコメントを後から確認すると、かなり有意義な講義であったことが窺えたことから、講師の一人でもある筆者も胸をなで下ろしている。

今後とも、このような活動を継続し、学生への技術士への認知を深め、技術士一次試験の受験を促すとともに、将来的に技術士を目指すことに少しでも繋がれば幸いである。

最後に、今回の講義に際しご理解及びご協力を頂いた、土木工学科の梶田教授、三神教授に、心より感謝申し上げます、報告とします。

以上

令和2年度 建設系学生へのリモート講義 開催報告その2 (建築学科編)

望星技術士会常任幹事 永井 和典

1. 日程：

令和3年1月14日(木)

2. 時間：

9:00~10:00(1時限目)

3. 場所：

東海大学湘南キャンパス

19号館417号室(建築学科渡部教授の研究室)

4. 参加者：

・東海大学教員:渡部教授

・東海大学学生:約30名

・望星技術士会:永井

川本工業(株):高橋氏(東海大OB)、小林氏



【写真1.会場となった19号館】

5. 概要

目的は土木工学科と同様であるが、建築学科の渡部教授から、永井の所属企業に対して建設業界と建築設備業界(空調設備・給排水設備)の実態について授業の中で話をしてもらえないかと、相談のあったことが発端となった。

永井が昨年2月に所属企業において、設計部から異動となり、新卒採用も担当することになったことが追い風となり、大学との接点強化のため、とんとん拍子で話が進行した。

このような経緯のため、建設業の具体的な仕事内容を中心に話をさせていただいた。とはいうものの、当社単独の講義ではなく望星技術士会との共催という形を取り、望星技術士会には全面的にバックアップをしていただいた。

6. 講義内容

土木工学科とは異なり、渡部教授の研究室からリモート講義を行うこととなった。時節柄、密接とならないよう交代で研究室に入っの講義である。院生の方にお手伝いいただきながら緊張した面持ちでスタート。とはいうものの、リモートで相手が見えないせいか、土木工学科と同様にちょっと拍子抜け。その後徐々に本領発揮となった。講義の概要は以下の通り。

【9:00~9:05】

渡部教授より「講義の趣旨」の説明。

【9:05~9:30】

望星技術士会(川本工業)永井より「建設業の仕事内容・やりがい、ゼネコンとサブコンの違い、設計業務、施工現場の紹介等について」の説明。

【9:30~9:40】

川本工業高橋氏より「建築設備業界における施工管理の実際について」の説明。

【9:40~9:55】

永井(前述)より「ゼネコン資格者ランキング(一級建築士・技術士他)、技術士試験・制度等について」の説明。

【9:55~10:00】

川本工業小林氏より「会社紹介、本学卒業生の当社における所属部署等について」の説明。

※授業終了後、講義を聴講した学生は感想を、聴講しなかった学生は建築設備について調べたことを簡単なレポートにして提出した。



【写真2.講義前の打合せ風景(永井)】

7. 講義の様子と学生からのコメント

対象となる学生は約 100 名ということだったが、当講義の聴講は必須ではなく、コメント内容から推察すると 30 名程度が聴講したようである。多くの内容を短時間の講義に押し込んだため、どこまで理解してもらえたか不安だったが、コメントを見る限り好評だったと感じている。

受講生が 1 年生だったこともあり、専門的な内容はなるべく避け経験談を多く入れるよう配慮した。建築学科の学生は、比較的目的意識が高く、建物の意匠設計（デザイン）をやりたくて入学するケースが多い。そのため 1 級建築士についてはよく知っているのも、そのあたりを足掛かりに技術士制度とその概要について説明した。技術士という資格についても、興味を持っていただいたようである。

講義に対する学生からの主なコメント(感想)を表 1 にまとめた。学生からはしっかりしたコメントが多く、東海大学の将来について明るい兆しを見出すことができた点は大きな成果だったと感じている。なお、講義に関するコメントが 30 件程度と多くなかったため、代表的なコメントを記載するに留めたので、ご了承ください。

【表 1. 学生からのコメントまとめ】

No	コメント (感想)
1	仕事内容がよくイメージできた
2	授業で習ったことの裏付けができた
3	就職について考えるきっかけとなった
4	技術士という資格を初めて知った
5	技術士と 1 級建築士の重要性がよくわかった
6	資格取得に挑戦したいと思った
7	実際の体験談が聞けてよかった
8	建築設備の大切さがわかった
9	省エネに興味を持った
10	空調の消費エネルギーが多いので驚いた
11	改修工事まで考えて建設するとは知らなかった
12	ゼネコンとサブコン(専門工事)の違いが分かった



【写真 3. 高橋氏の講義風景】



【写真 4. 小林氏の講義風景】

8. まとめ・感想

建築学科では、土木工学科と異なり前述のように望星技術士会と川本工業の共催という形で講義を行わせていただいた。施工入門的な内容の授業だったこともあり、技術士に関しては、あまり時間をかけて紹介することができなかつた。しかし、1 級建築士以外にも重要な資格があることについて、建築学科の学生にも認識していただけたと思う。

建築学科では、土木工学科ほど技術士は重要視されていないが、幸いなことに渡部教授には一定以上のご認識をいただいている。技術士の認知について、まずは小さな一歩を踏み出すことができたことと実感している。次年度以降も小さくてもいいので、一歩ずつ歩んでいきたい。

最後に、今回の講義に際しご理解とご協力をいただいた建築学科の渡部教授に心から感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

以上

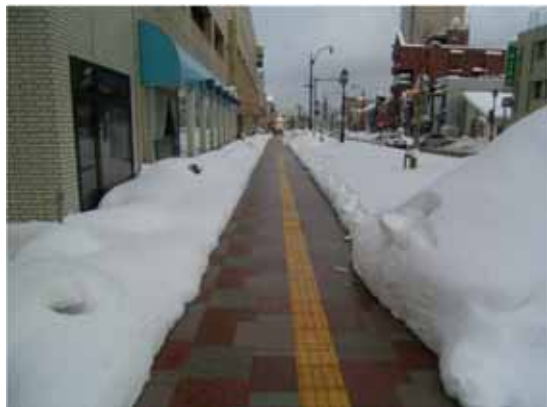
会員からの便り 1

技術士を目指す技術者へ

1. 社会人になって

私は、昭和 57 年度に土木工学科を卒業し、その後大学院へ進み、稲田先生・赤石先生の下で土質工学に関する研究を行いました。

就職は地元の新潟県内で地盤に関する業務を行っている（株）興和に入社し、社会人としてスタートしました。入社時は地盤に関する仕事を希望していましたが、配属された部署の業務は、積雪寒冷地特有の雪を融かす設備の設計施工でありました。設備・機械・熱に関する分野であり、専門外でありました。しかし、どこかに地盤に関することに携わりたいという気持ちがあり、新入社員のころから地盤の熱を用いた融雪設備の技術開発に取り組みせてもらいました。現在では、地中熱ヒートパイプ融雪工法という名称で北は北海道から西は鳥取県まで施工実績を増やすことができました。この工法は、電気や石油を使用することなく、地中熱という再生可能エネルギーのみで融雪を行う、ランニングコストゼロが特長であります。



＜青森市内の歩道を地中熱により融雪＞

2. 技術士取得のための努力

私が入社した年に技術士補の制度が始まり、新入社員の時に合格しました。しかし、技術士になるには、既存技術士の下で業務実績が必要であり、その当時の融雪設備の設計施工の業務実績では、どの分野で技術士を受験したらよいか悩みました。建設部門の道路で受験したこともありましたが、道路の専門的な知識がたりなく不合格になり、一時は技術士をあきらめていた時もありました。しかしながら、入社して

齋藤 浩之

(さいとう ひろゆき)

工学部土木工学科 1982 年卒

技術士（建設・総合技術監理）

株式会社 興 和

常務取締役



13 年目に地盤調査を行う部署へ異動となり、やっと学生時代の専門分野が生かせると思ったことと、技術士の建設部門の土質での受験チャンスができた思いました。

そのころの目標は、技術士を 30 代で合格すること、平成 13 年度から技術士の試験方法が改正になることから、平成 12 年度までに合格することとし、試験勉強に努めました。試験勉強は、当時業務が忙しく残業が多いことや子供が小さいことから、帰宅後に勉強する気になれなく、朝 4 時に起床して勉強しました。その甲斐あって平成 12 年度に建設部門の土質で合格することができました。技術士試験に合格するには、やはり努力が必要であります。努力した人だけが報われると信じて挑戦してください。

3. 技術士になって感じたこと

技術士になって最初に感じたことは、自分に自信ができたこと、顧客からの信頼や周囲からの評価が上がったこととあります。その分、技術士としての責任の重さや技術士倫理の重要性などを感じました。

当社では技術士が 24 名在籍しています。地方の建設会社としては多い方だと思っております。私は技術士を取得したばかり若手技術者に「技術士になってからが勝負だ、この資格を使っていかに受注に結び付けるか、品質の高い仕事をして顧客の信頼を得るかだ」とよく言い聞かせています。

技術士は技術者にとって最高峰の国家資格であります。技術士の資格取得には、「必ず自分は技術士になる」という強い意志を持ち続けることが一番大切だと思います。これからさらに望星技術士が増えることを期待しています。

会員からの便り2

東海大学工学部原子力工学科を目指したもの（その1）

東海大学望星技術士会会員の佐々木隆博です。望星技術士会会員ですので、技術士資格保有者です。技術士（原子力・放射線部門：放射線利用部門）の中でも最少人数の放射線利用部門（全国で40人弱しかいない）の所有者です。ちなみに、同時合格者は、某大学学部長と2名でした。

今回は、技術士資格の前段階として原子力工学との馴初めを中心に記載させていただきます。その1とさせていただきます。（好評？であればその2に展開させていただきます。）

簡単な自己紹介ですが、栃木県塩谷郡高根沢町の生まれです。日本一影の薄い県に栃木県がなっていますので、高根沢町の紹介をさせていただきます、栃木県県庁所在地、宇都宮市に隣接し、宇津救命丸（小児薬）発祥の地であり、成田国際空港用地にあった宮内庁御料牧場が移転し立地しております。高根沢音頭（ご当地ソング）でたんたん田圃の高根沢と歌われる通り米どころでもあります。ちなみに令和の大嘗祭米の生産地となりました。

また、JR烏山線が通っており、宝積寺駅⇄大金駅と言った縁起の良い駅もあり、温泉もあり、現在は、高根沢ちゃんぽんをPR中です。

遡ること、高校の修学旅行で九州に行きました。見学先に長崎原爆資料館があり、初めて触れる原爆の悲惨さと原子力エネルギーの強さに衝撃を受けました。入場者名簿か何かに（定かではなく恐縮です。）「原爆の悲惨さに触れ、原子力を平和にのみ利用することを心より誓う。」と書いた。その後、高校3年春の遠足で東海村原子力施設見学に行きました。これにて、大学で何を学ぶか確定しました。

原子力工学です。早速、蛍雪時代別冊の学科案内号の分厚い本を引いていたところ東海大学

佐々木 隆博

（ささき たかひろ）

工学部原子力工学科 1983年卒

技術士（原子力・放射線）



工学部に原子力工学科があるでは有りませんか。ここで確定と言うと格好いいのですが、家庭の事情も有り他の公立を受ける事に、しかし入試問題と意見が合わず挫折！。暖かく迎え入れて頂いたのが東海大学工学部原子力工学科でした。東海大学入学が決まり春休み？中にアメリカでスリーマイル島原子力発電所事故が起きました。（当然入学後は話題豊富でした。）

晴れがましい入学式は、体育館で行われ、帰ろうとした時に「原子力工学科新入生は、6XX教室集合の声がかかりました。」行ってみると教室には、新入生（院生）含む教卓には学科の先生方勢揃いでした。

某先生から開口一番「周辺を見渡して4人のうち1人来年は同学年にいない」と言われた。意味が分からなかったのですが、当時の原子力工学科は、留年率25%（全学一番）であった。（1年後、嘘でない事を実感した。）

入学後の授業は厳しいものでした、一般教養の物理、化学から学科先生による特化した教育で鍛えられました。（しかも、月～土のフル4コマ授業）

学科の同期も、他大学を蹴って来たもの多く原子力工学を学びたいと意識が強かった様に思えます。小生も何か体育会系サークルをしようと思ったのですが、とてついでに行けそうに無いので文理融合思想に則った文化部に籍を置きました。たまたま隣の部室が落研でしたので、現、昇太師匠（当時、頭下位亭切奴さん）に少々遊んでいただきました。

大学2年の時に原子力工学科設立25周年を迎えました。(表紙のみですが添付させていただきます。)



技術士会でも技術士法立案に松前重義先生が関わっていらっしゃいました。さらに、原子力基本法立案にも深く関わっていらっしゃいました。

全国大学の先駆けとして原子力工学科を設置したのは東海大学です。代々木校舎に研究用原子炉の設置計画もありましたが、諸般事情で無くなりました。今にして思えば、工学部で卒業単位数最多の学科で必死に勉強した？4年間でしたが醸成された素地のおかげで技術士試験の専門科目では、何も準備していなくても当時の余力で合格圏内に行けました。

来年度募集から、原子力工学科が消滅してしまうのは、残念です。

写真は、JAXAつくば宇宙センターでの写真としました。宇宙のビッグバンを考えると、ニュートリノに至り微細な原子の世界になります。

その1と称し、小生と東海大学工学部原子力工学科との馴初めを中心に記載させて頂きました。次のご要望あれば、その2と称し、技術士との関連について記載させて頂ければと思います。

会員からの便り3

技術士事務所として仕事をする

日本技術士会に貢献？

お恥ずかしい話ですが、技術士受験にあたって随分日本技術士会を儲けさせてしまいました。10回を超える受験料を収めたからです。

建設コンサルタントに勤めていた私は二次試験の受験要件を得られると会社から毎年凄い圧力で受験を勧められました。20代で初めて受験した時には回答用紙が汗でぐちゃぐちゃになり玉砕したことをよく覚えています。この試験は40歳を過ぎないと受からないのではないかと思います。毎年受験申請をしていましたが、ほとんどは棄権の状況でした。ところが、ある年に私の同級生が合格し、さらにその後には私よりも若い職員が次々と合格しました。気がつくとも自分も40歳を過ぎていました。一念発起して勉強し、合格することができました。

紆余曲折

私は、子供の頃より電子工作やアマチュア無線を趣味としており、大学に行くとしたら電子や通信の分野に行くのだと思っていました。ところが高校時代にひよんなきっかけで化学に転向し、大学は工業化学科に入学しました。卒業研究では、神奈川県下水道公社に出向し水質管理を学んだのですが、卒業後は当時夢中であった「犬」に関する仕事に就きたいと、ペットフードのメーカーに勤め営業マンとして社会人の一歩をスタートしました。ところが趣味を仕事にすることの弊害で夢破れて、改めて下水道に関するコンサルタントに就職。この頃より下水道施設の有効利用として下水道管路内に光ファイバーケーブルを敷設するという新しい事業の調査・計画・設計業務に携わるようになりました。

得意分野

下水道光ファイバーの業務は、土木的な知識だけではなく、電気的な知識も必要とされ、多くの土木技術者は敬遠してしまう内容です。

星崎 紀一

(ほしざき きいち)

工学部工業化学科 1988年卒

技術士(上下水道部門-下水道)

星崎技術士事務所



しかし、元々電気・通信関連が好きな私は抵抗なく受け入れることができました。楽しく仕事をしているうちに知識や経験が蓄積し、発注者から様々な相談を受けるようになりました。一つの会社においては、受注できる仕事にも限界があるので独立して技術士事務所を立ち上げ、様々な会社の下請けでもいいので、下水道光ファイバーの仕事に特化して仕事を受けられるようにしました。



小口径の下水道管渠内にロボットで光ファイバーケーブルを固定する工法

技術士事務所

事務所を立ち上げ運営していくには営業的な感覚も必要です。ここでは営業マンとしての経験が役立ちました。

紆余曲折のたくさんある私の経歴ですが、それら全てが結果的には今日の全てにつながっており、無駄なことはなかったと確信しています。中でも技術士事務所として看板をあげることができたことがもっとも大きな信頼につながっています。不透明な時代を生き抜くために学生の皆さんには、是非自分の得意分野で技術士を取得することをお勧めします。

会員インタビュー

吉田前会長とのインタビュー

望星技術士会幹事 畑 恭子

2月20日（土）東海大学湘南校舎の吉田先生の研究室にてインタビューさせていただきました。

畑：本日は、2017年11月の望星技術士会発足時より5年にわたり会長を務めていただきました吉田一也先生にインタビューさせていただくことになりました。吉田先生、今日はよろしくお祈りします。

吉田先生：よろしくお祈りします。

畑：昨年の8月、吉田先生と研究室の卒業生の方が国際線材製品学会の最優秀論文賞を受賞されていますね。おめでとうございます。

吉田先生：調べていただいたみたいですね、ありがとうございます。

畑：先生ご本人がまだまだ現役で研究されて論文発表されていることに感動しました。

吉田先生：大学の先生達が自分自身で研究しなくなるが一番良くないことだと思っています。自ら論文を書いて、自ら話すことが大事。

畑：指導された学生さん達も国際学会で評価される実力を身につけられていて先生の指導力の高さを感じました。それでは、早速ですが望星技術士会について伺っていきたくと思います。

・大学から会長に任命された経緯について

吉田先生：副学長と工学部長をやっていた時に、発起人の方々が望星技術士会を立ち上げたので、会長になっていただきたいと2度3度お祈りに来られたのですが、その時は全てお断りしました。なぜかという、まず第一に私は技術士という資格を持っていない上に、私の機械系の分野が技術士とあまり馴染みがなかったからです。大学でも技術士になろうとする分野を教えているのは一部に限られていました。第二に当時、就職部長（現、キャリア支援センターの初代所長）を務めていて、東海大学卒業生で会社の役員以上になられている方の会合があ

り、技術士会と同様、会員同士の懇親と情報交換、将来の社会の在り方についての意見交換などしていたからです。役職柄、様々な会合に参加しましたが、その経験から技術士会の会長は学外の方が良いと、お断りしました。

ところが、発起人のお一人の方が松前達郎先生（現 総長）の研究室の第一期生で、困って達郎先生にお祈りに行ったらしいのですが、達郎先生は自分はもちろんできない、名前を貸すこともできない、と。それでもう一度自分に返ってきた。ここまで追い詰められたらやるしかない、では2年だけやります、と言ってお引き受けしました。

畑：2年ですか。

吉田先生：実際には5年やりましたけど。

畑：最初に発起人の方が直接吉田先生にお祈りに行ったのは何故でしょうか？

吉田先生：その時に言われたのが、京都大学技術士会も工学部長が会長です。何々大学も工学部長が会長です、と。その時は2回続けて断りました。

畑：なるほど、そのような経緯で吉田先生に直接お祈りがあり、2回お断りしたにも関わらず、最後は大学というか松前達郎先生から薦められてお引き受けいただいたんですね。

吉田先生：私も東海大学の卒業生だから。まあしゃあないな、と。

畑：ありがとうございます。

・会長から観た望星技術士会の活動について

吉田先生：役員の方を中心に非常に熱心に活動されているな、と思います。とくに、今の大学生のことを思って活動を続けたいと思っておられるところがすばらしいです。ただ、これはどこの学協会でも言われていることですが、メンバーが限られてしまっていることが懸念されますね。

畑：役員の方々は熱心な方が多いですから、若い人は少し戸惑うかもしれませんね。

吉田先生：でも、誰かがやらないとこういう活動はやれないので。もう一つは活動費について。今の執行部の方々の財布が豊かで、愛校心があるから交通費など持ち出しでもできていると思うけど、長い目で見ると活動を続けることが大切なので、個人に無理のない形を考えるべきだと思います。東海大学ゴルフ部のOB会は、一人3000円以上、3万円以内で寄付を募り、集まったお金のほとんどを学生に使ってもらうようにしています。寄付したから何かインセンティブがあるわけではなく、年1回の納会にご招待している。そこで戦績を報告したり、会計報告している。名称は寄付ではなく、賛助金とか協賛金。技術士会の役員の方々の活動でも交通費ぐらいは出すべきではないかと会長をやめるときに申し上げたんですよ。長続きができるような会の運営ができるための資金について考えてほしいです。

・5年間で200名を超える会員数の評価について

吉田先生：会長3年目の時に会員が200名にならないと辞めると言ったんです。

畑：え、そうなんですか？

吉田先生：他にも総会に50人来なければ辞めるとも言いました。これは東海大学の卒業生は30数万人いると言われてるので、せっかくやるなら大きな会員でしっかりとした組織の中で、執行部の方々が非常によくやられているところを見てもらいたいと願ったからです。

畑：役員の方々が会員数200名にこだわっていた理由がようやくわかりました。

・会員と学生との交流会で感じられたことについて

吉田先生：学生にとって望星技術士会というのがどういう組織なのか、99.9%がその存在すら知らないのが現状。工学部の中で技術士に興味がある学生も0.1%ぐらい。土木、建築の分野ならば、親族等から技術士の取得を勧められるかもしれないが、工学部の中でも技術士に関する

教育はほとんどしていません。JABEE制度も当初は、認定プログラム修了生は技術士の一次試験免除、政府の後押しで多くの企業がインセンティブを与えることになっていましたが、実際にはそういうことはなく、手間がかかるだけなので、東海大学も来年度からやめることになっています。

技術士にもっとメリットがある、例えば給与ベースでもメリットがないと、何のために技術士を取るのか、ということになる。技術士の身分とそれに見合った手当はきちんと払わないと、この社会は良くなれないんじゃないかと思う。だから、各大学の技術士会が技術士の地位並びに手当のようなインセンティブをもっと高めていかないと、学生に伝わらないと思います。

畑：そうですね。私の勤めている会社は先生もご存じのように技術士の資格がないと仕事に手も上げられない業界なので、職員ならば技術士を取るのが当たり前という雰囲気になっています。でも、技術士会で会った方々から、業界によっては技術士という資格は仕事をする上で必ずしも必要ではないし、会社でも評価されないと聞いて驚いた経験があります。学生さんに向けて、技術士取得のインセンティブやモチベーションをどのように働きかけすればよいか悩むところです。

吉田先生：そういう面でも、技術士の地位向上やインセンティブがあるようにしないと、苦勞して取得した国家資格なのに社会に広がらない。もう一つは、最近、環境にしても工学にしても、技術的なことを当然知っていながら変なことをして大きな問題になることが多い。データ偽装など。そういう時に国家資格を持つ技術士がいれば防げることもあると思う。許認可に限らず全分野で技術士が重用されるように日本の社会を変えていかないといけないと思う。博士も同じだけど。大学の教員は博士を持っていないとなれないが、プラスアルファはないんです。

・工学部土木学科学生に技術士を授業で指導した取り組みについて

吉田先生：執行部の役員の皆様のこれまでの努力が実った取り組みだったと思います。99.9%の学生は技術士を知らないし、先輩達が社会でどれだけ活躍しているかも知らなかった。社会における技術士の役割などを教えていただいたことは非常に良かった。ただし、これまでの学生との交流会は主に湘南校舎での開催だったので、他校舎や湘南でも土木だけではなく建築もできればよかったが、自分はもう工学部長を降りてしまったので、ちょっと残念でした。大手メーカーに就職したOBはリクルーターと称して訪問し、会社の様子などを学生に話しているが、今回のように学生が知らない社会での活躍を聞かせてもらえると具体的なイメージができてよいと思う。ぜひ続けてほしいです。

・今後望星技術士会の活動での課題と期待について

吉田先生：執行部の10人ぐらいだけが苦勞している状況はどこかで打破しないといけない。継続は力なり。今までやられてきたことを総括しながら新しいメンバーを迎えつつやっていただきたい。

・最後に川上新会長に一言お願いします

吉田先生：川上先生は良いものをいっぱいお持ちになっているので、望星技術士会が盛況になるように川上先生の方で今後ともよろしく願いしたいということだけです。

コロナ禍で大学への入校も制限されている中、1時間にわたりお話を伺わせていただきました。吉田先生から、望星技術士会の持続的な活動についてのお心配りに留まらず、日本における技術士の地位向上の必要性など、非常に大局的な視点でのご意見をいただき、勉強になりました。

この後、私の個人的な興味で吉田先生が団長をされた研修航海のお話を写真付きでたっぷり伺いました。令和元年度の総会の講演では出なかったような団長ならではの苦勞など裏話的なこともたくさんお聞きしました。でも、先生が話される望星丸の船上生活が私が知っているも

のとはずいぶん違っていてちょっと羨ましかったです。

吉田先生、今日はありがとうございました。



【写真1. 吉田前会長】



【写真2. インタビューの様子】

会員自己紹介のページ

① 出身学部学科 技術士の部門 現在の仕事 ひとつこと (卒業年度順)

【1967】

●多田順一①工学部電気工学科②電気電子, 情報工学, 総合技術監理③多田技術士事務所兼会社員(西脇電気商会)④日立製作所卒業

●室井謙三①第二工学部電気工学科②電気電子部門, 総合監理部門③放送技術コンサルタント④開発途上国の放送局に、放送局の企画管理、番組制作、放送機器運等の技術移転を行っています。

ブータンでの例

<https://www.jica.go.jp/project/bhutan/0700530/news/index.html>

【1971】

●大重兼志郎①工学部土木工学科②建設部門(港湾及び空港部門)③ゼネコンを60歳で定年退職後、東京の建設コンサルタントに勤務。70歳で退社。現在、仙台の建設コンサルタントに籍を置かせてもらっています。大型クルーズ船・コンテナ船専用岸壁の工事計画について、リモートワークで設計・施工計画作成の仕事を進めています。④65歳、ゴルフ練習中に心肺停止状態になりましたが、周りの方々の救命措置が功を奏し、一命をとりとめました。3ヶ月間の入院生活後、このままで人生を終わらせたくない気持ちが強くなり、東北の山々を歩きまわり、68歳で富士山に登ることができました。これが生きる原動力となり、仕事、スキー、ゴルフ、ボランティアを通じて若い人や近隣の方々と親睦を深めています。コロナ禍ですが、日々楽しく過ごさせて頂き、感謝、感謝の毎日です。

●高田寛①工学部建築学科②建設部門, 総合技術監理部門③大成ジオテック株式会社顧問, 一級建築士④九大院芸術工学部 HME 認定(芸術)

【1972】

●藤原秀一①海洋学部海洋工学科②環境③いであ(株)技術顧問④1月28日に技術士会環境部会でサンゴ礁に関する話題をWeb講演しました。詳細は日本技術士会 HP 環境部会行事案内をご覧ください

●大下和夫①海洋学部海洋工学科②応用理学・建設・環境・総合技術監理(建設)・総合技術監理(環境)③いであ(株)大阪支社 技術顧問④関西に在住

●久一博世①海洋学部海洋土木工学科②建設部門(河川砂防海岸, 建設環境)③インフラの設計(建設コンサルタント)④「生涯現役技術者」を目標としています。

●佐々木邦平①海洋学部海洋土木学科②建設部門(土質及び基礎)③建設コンサルタントに勤務④出身学科がなくなり残念!

【1974】

●笠原勉①海洋学部海洋工学科②建設部門・環境部門・水産2部門③全国の海域で実施した藻場再生・造成の研究や事業の技術を生かし、現在は北海道の磯焼け海域でコンブ場の再生事業と藻場がCO₂を吸収するブルーカーボンで地球温暖化防止に貢献する研究に取り組んでいます。④望星技術士会副会長に任命され会員の増加と、在学生へ技術士の認識を高める継続した交流会を目指しています。

●齋藤和夫①工学部土木工学科②建設部門(土質及び基礎), 応用理学部門(土木地質)③北海道の地質コンサルで技術相談、報告書のチェック、若手技術者の指導④老骨に鞭を打つ毎日

●平野滋①工学部経営工学科②経営工学部門③平野技術士事務所経営④東海大学の卒業生で経営工学部門の技術士を私以外知りません。後輩に技術士資格取得を勧めています。

【1976】

●綿貫啓①海洋学部海洋土木工学科②水産部門(水産土木)③(株)アルファ水工コンサルタンツ東京本社。水産工学に関する調査・計画・設計等。水産工学技士養成講座講師④藻場やサンゴ礁に関する研究開発が得意。今はナマコの幼稚園づくりに没頭しています。

【1977】

●山田浩①工学部通信工学科②電気電子部門③労働安全に関するコンサルタントを行っています。④生涯現役が目標です。

【1978】

●二階堂悦生①大学院工学研究科土木工学専攻②上下水道部門③株式会社西部技術コンサルタント関西営業所所長④下水道に関する調査・計画及び実施設計

●西井康浩①海洋学部海洋土木工学科②フェロー, 建設部門(港湾及び空港)③西井技術士事務所代表(博士(工学))、大学非常勤講師、社外技術顧問④公益社団法人日本技術士会九州本部役員(倫理委員長)として、技術者倫理の教育や啓発活動等に携わっています。

【1979】

●勇秀忠①工学部土木工学科②建設部門③設計業務等の管理技術者 非破壊試験調査・解析④業務の傍ら、(一社)熊本県コンクリート診断士会代表理事、(公社)日本技術士会九州本部倫理・広報委員会委員、熊本高等専門学校 非常勤講師に携わる。もうすぐ63歳ですがまだ、しばらくは頑張ります。

●小島龍也①工学部建築学科②衛生工学部門③空調・衛生工事の施工管理会社に勤務しています。現在は内部監査を担当しています。④定年後、特別社員として勤務中。もう暫く頑張ります。

【1980】

●岩佐直人①工学部土木工学科②建設部門③斜面对策技術に関する調査・研究・開発及び海外での防災技術展開④時間は止まってくれない。常に勉強とチャレンジです。

●齋藤寛①工学部土木工学科②建設部門③都市計画コンサルタント(Kプランニングオフィス代表)④望星技術士会の事務局長を務めさせていただいております。本会活動の充実のために会員の皆様の様々なご意見をいただきたいと思ひます。

【1981】

●山本真之①工学部土木工学科②上下水道部門, 総合技術監理部門③パシフィックコンサルタンツ(株) 東北支社管理室 室長代理④定年退職後も勤務を継続して約2年が経過しました。望星技術士会では卒業学部や年次、専門を超えた方々との触れ合いが楽しく、ぜひ多くの方々に参加いただきたいと思っています。よろしく願いいたします。

●松永泰直①海洋学部海洋土木工学科②建設部門(土質及び基礎)③(株)不動テトラ千葉支店長をしています。(主に地盤改良を営業)④一昨年還暦を迎えましたが、まだまだ現役で頑張っています。

●谷徳造①工学部航空宇宙学科②機械③建設業法7条に基づく「専任技術者」④今は無き「ロケット工学研究会」での経験が支えになっています。

【1982】

●香村官永①海洋学部海洋資源学科②応用理学部門(地質)③建設コンサルタントで土木地質や道路防災に係わる仕事に携わっております。④一昨年、定年を迎えました。中国地方を拠点に可能な限り社会貢献致します。

● 實方規晃①海洋学部海洋土木工学科②上下水道部門(下水道)③設計コンサルタント④昭和 20 年代、30 年代施設の改修など、遙か先輩方が経験された困難に我々が直面しています。既存の技術と柔軟な発想により未来を切り開きましょう。

【1983】

● 永井和典①工学部建築学科②衛生工学部門③昨年の 2 月に長年所属していた設計部から経営企画部に異動となりました。今は経営戦略、経営計画、経営組織の立案・管理から人事制度、教育・訓練、広報まで幅広く手掛けています。④望星技術士会の活動を通じて、お付き合いの幅と視野が広がったと感じています。皆さんも是非ご参加ください。

【1985】

● 城井浩介①海洋学部海洋資源学科②総合技術監理部門(応用理学), 応用理学(地質), 河川砂防及び海岸・海洋③建設コンサルタント勤務④今年の 5 月で定年です。

● 吉田倫夫①海洋学部海洋科学科②建設部門, 総合技術監理部門③ナカボーテックで社会インフラのメンテナンス、腐食調査や電気防食をしています。④当会に参加して、今の仕事に関連する方々が多いのにびっくりしました。

【1986】

● 畑恭子①海洋学部海洋工学科②水産部門(水産水域環境)③いであ(株) 国土環境研究所 水環境解析部④海洋工学科海洋物理学研究室出身ですが、入社後水域生態系モデル構築に打ち込み水産部門の技術士となりました。学生の皆さん、社会に出てからも可能性は無敵大です！楽しんで打ち込めるものに出会って下さい！

● 鈴木雅登①理学部情報数理学科②電気電子部門③日本工営(株)でエネルギー関連事業に従事しています。④情報数理学科卒業ですが「発送配変電」に衣替えしました。

【1987】

● 星崎紀一①工学部工業化学科②上下水道部門(下水道)③下水道に関する計画・調査・設計コンサルタント④3年前に星崎技術士事務所を立ち上げ、下水道光ファイバー、不明水対策などの業務についてコンサルタントや施工会社の下請けとしてがんばっています。

● 山崎俊雄①工学部通信工学科②電気電子部門③電子計測器保守サービス④5G のことならぜひアンリツにご相談ください。2019 年の建学祭で望星技術士会の講演を拝聴しました。CPD 講座の開催をお願いします。勤務先に企業内技術士会がなく、情報交換の機会がありません。みなさんとの交流を希望します。

● 岩井克巳①海洋学部海洋科学科②建設部門(建設環境)③防災・環境のリスクコンサルタント、海洋教育、地域振興支援、カキ養殖④会社勤め、NPO 運営、漁業の 3 足の草鞋を履き大阪を中心に活動しています。

【1988】

● 高橋邦夫①工学部土木工学科②総合技術監理部門, 建設部門③新潟に本社がある建設コンサルタント④技術を介して様々な分野の方とコミュニケーションが図れるといいですね。

● 坂東和郎①海洋学部海洋資源学科②総合技術監理(応用理学), 応用理学(地質), 建設(道路)③新潟の防災関係の建設会社に勤務。消融雪システム・地中熱利用システム・地下水調査などを担当しています④日本技術士会北陸本部で事業委員長・試験副委員長を務めています。宜しくお願いします。

【1989】

●鈴木啓司①工学研究科土木工学専攻修士②建設部門(鋼構造及びコンクリート)③パシフィックコンサルタンツ(株)④本社にて社内外の「i-Construction」推進活動に従事しています。入社以来、橋りょう設計、構造物の維持管理、アセットマネジメント、事業組成などに従事し、それらの経験を活かしながら、現在の仕事をしています。

●渡邊雄二①工学部工業化学科②情報工学部門③障害福祉・運輸・情報関連④望星技術士会の繋がりが広がるといいですね

●竹原洋一郎①工学部土木工学科②建設部門、水産部門③五洋建設(株)勤務④学校つながりも縁、助け合っていきましょう。

●関信行①工学部土木工学科②建設部門③中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)名古屋支店飯田道路事務所；道路保全管理業務の統括管理④一期一会を大切に・・・

●多賀屋宣貢①工学部土木工学科②建設部門道路③建設コンサルタント 床版取替施工管理④よろしくお願いします。

●江口真哉①工学部土木工学科②上下水道部門(下水道)③取締役技師長、技術管理全般および若手に対する技術指導。今後の業界における会社のあり方等、技術者と経営の両面を行って④若い技術士を誕生させるべく、社内講師活動を行っています。

【1990】

●宮内泉①工学部土木工学科②建設部門③建設コンサルタント④時代の変化を感じます(DX,テレワークなど)

【1992】

●名越隆雄①海洋学部海洋資源学科②建設部門③北海道の国道の道路災害に関する行政支援や有識者対応等④望星技術士会の輪が益々広がることを期待しています。

●坂本英雄①工学部生産機械工学科②電気電子部門③技術開発業務④異業種コラボによる技術開発を模索中です。ぜひお声をかけを！

【1993】

●植松隆弘①海洋学部海洋土木工学科②建設部門(道路)③建設コンサルタント④清水区在住、静岡県内の建設コンサルタント会社に勤務しております。

【1994】

●島田祐作①海洋学部海洋土木工学科②建設部門(河川,砂防及び海岸・海洋),総合技術監理部門③アイコオ設計(株)代表取締役、広島県設備設計事務所協会専務理事④建設コンサルタントに18年間勤務、一級建築士を取得して、現在に至ります。現在は、土木設計よりも建築設備設計がメインです。よろしくお祈いします。

【1995】

●坂本真一①工学部建築学科②建設部門(施工計画・積算)③建築プロジェクト・マネジメント・建設コンサルティング、会社名:レンドリース・ジャパン(株)④多忙のため、参加できる機会が少なくして申し訳ありません。

●磯打千雅子①海洋学部海洋科学科②建設部門、総合技術監理部門③香川大学地域強靱化研究センター④防災をテーマに研究しています。

【1997】

●庄司大介①工学部土木工学科②建設部門(河川,砂防及び海岸・海洋)③建設コンサルタントで主に河川構造物の設計④当会ではまだ若輩者の部類で力不足ですが、学生さんの役に立てようがんばります。

【1998】

●山村英樹①開発工学部生物工学科②生物学③山梨大学生命環境学部で准教授として微生物学を教えている④微生物の中でも放線菌を扱っています。技術士会生物工学部会の幹事、技術士会山梨県支部の幹事も務めています。よろしく願いいたします。

【1999】

●今井昌和①工学部 動力機械工学科②機械(技術士補)③東日本旅客鉄道(株)で鉄道車両の改造工事に伴う図面の管理、資材調達、技術指導等を行っています④コロナに気を付けながら前へ進みます。

●中里彰人①工学部建築学科②建設部門(土質及び基礎)③構造物の基礎となる実大の杭に荷重をかけて、その挙動のデータを取得する載荷試験屋です④小さい構造物から大きい構造物まで様々な基礎杭の試験を行っております。どうぞよろしく願い致します。

【2001】

●片山大介①工学部土木工学科②建設部門(施工計画, 施工設備及び積算)③日立造船(株)で鋼構造物工事の施工計画に関する業務を行っています④同業種のお仕事の方だけでなく様々な業種の方とも積極的に交流できたらうれしいです!

(注) 卒業年度は学部卒で統一しました。大学院修了のみの記載の方は修了年度に記載しました。

< 連絡事項 >

1. 会員の皆様へお願い

東海大学望星技術士会は、入会金や年会費を現在は徴収しないこととし、行事毎の必要費用を参加費として負担いただいています。そこで次のお願いがあります。

(1) メールアドレス変更の場合は必ず連絡下さい

当会では郵送費や会誌印刷費の予算はありませんので、メールアドレスを持っていることが情報交流のための一つの条件です。

メールアドレスを変える場合は大学事務局 喜友名氏にご連絡をお願いいたします。

kiyuna@tsc.u-tokai.ac.jp

(2) 東海大学出身の技術士取得者を紹介して下さい

東海大学卒の技術士をご存じなら、是非入会をお勧めくださるようお願いいたします。会員が多ければ、会のプレゼンスが向上します。また活動項目も増やせます。

【参考】最近の登録会員数は、
以下の通りです。
令和3年3月---- 203名

(3) 入会方法ならびに問合せ先

事務局アドレスに「入会希望」をご連絡下さい。後ほど事務局より、入会にあたり必要な情報をお送りいたします。

東海大学望星技術士会

ホームページ :

<http://engineer.bousei.u-tokai.ac.jp/>

(4) 行事等への参加のお願い

講演会や見学会などの行事には会員以外の方にも参加いただけるようにしています。

同僚の方や同窓の方などに、開催通知を転送していただければ幸いです。

(5) ご意見・ご提案をお待ちします

「こんなイベントをやって欲しい」などのご提案や、改善すべき点などのご意見は是非事務局アドレスまでお送り下さい。また遠方の方もどしどしご意見や近況をお寄せいただければ幸いです。

2. 東海大学望星技術士会 今後の予定

令和3年度の総会は、下記の日程及び内容を予定しております。詳細は、改めて会員の皆様へ連絡を差し上げます。

日程：令和3年6月19日（土）

14時～16時予定

開催方法：ZoomによるWeb方式

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点より、リモート開催とします。詳細は別途連絡「Web 総会開催のご案内」をご覧ください。

<<総会内容>>

報告事項：令和2年度活動実績報告の件
審議事項

議案-1：令和2年度会計報告

会計監査報告の件

議案-2：会則改定の件

議案-3：令和3年度役員選任の件

議案-4：令和3年度活動計画（案）

及び予算計画（案）の件

議案-5：会員名簿公開の件

技術士制度及び試験制度の変更・見直し

1 はじめに

技術士法は1957年に制定され、直近(2000年)の技術士法改正から既に20年経過している。その間に、産業構造や経済構造、社会ニーズ、国際的な環境が大きく変化し、対応した技術士制度がどうあるべきかが問われている。

これらを受け技術士資格の国際通用性の確保等(国際エンジニアリング連合 IEA: International Engineering Alliance の求める資質能力との整合性)の観点で2015年から科学技術・学術審議会の技術士分科会において、今後の技術士制度の在り方について継続して審議が行われてきた。2019年には同分科会として「技術士制度改革について」が取りまとめられている。

しかし、法律、関係する省令及び告示の一部改正等が必要なため実施に至っていない項目が多く検討が進められている。以下、概要を紹介する。

2 技術士制度及び試験制度の変更・見直し

2.1 技術士制度

主な技術士制度変更の提言と今後検討すべき事項は下記に示す通りである。

①継続研さん・更新制の導入:更新制と名簿の公開が実施されている国がほとんどであることから、日本でも更新制の導入を検討する。5年ごとの更新及び更新要件としてCPDは更新講習を含めて5年間で100時間が検討されている。

②活用促進・普及拡大:技術士資格の活用方法、活用程度に部門間に格差がある。文部科学省と日本技術士会が中心となって、活用の提案がなされている資格に関して関係機関に働きかけることとしている。

③国際的通用性の確保:グローバルエンジニアの需要が増大しており、相互承認や活用を検討する。

例えば、APEC エンジニア等の活用を促進する。

④技術士補制度の見直し・IPDの整備・充実:我が国においてもエンジニアの育成方針、IPD制度(初期能力開発:Initial Professional Development)について検討を行う必要がある。

⑤総合技術監理の位置付けの明確化:位置付け及び求められる資質能力等に関して再整理が必要である。

2.2 試験制度

技術士試験の国際的通用性確保のため見直しが必要であるとして、技術士二次試験については既に2019年度から変更後の試験が実施されている。主な変更点は、①必須科目を択一式から記述式に、②技術士に求められる資質能力(コンピテンシー:専門的学識、問題解決、マネジメント、評価、コミュニケーション、リーダーシップ、技術者倫理、継続研鑽)に沿って出題内容や採点評価項目の変更、③選択科目の統合化により96科目から69科目への変更があった。

技術士一次試験については、現時点での変更はないが、専門科目を共通化して5つ程度のグループ(機械・システム系、電気電子・情報系、マテリアル系、建設系、環境・生物系)で行うとしており、今後変更が検討されている。一次試験の現在の内容は下表の通り。

詳細については公益社団法人日本技術士会 HP (<https://www.engineer.or.jp>) で確認されたい。

(太田芳雄 記)

技術士一次試験の内容

科目	問題の種類	試験方法 (択一式)	時間	合否
基礎科目	科学技術全般にわたる基礎知識 1) 設計・計画 (設計理論、システム設計、品質管理等) 2) 情報・論理 (アルゴリズム、情報ネットワーク等) 3) 解析 (力学、電磁気学等) 4) 材料・化学・バイオ (材料特性、バイオテクノロジー等) 5) 環境、エネルギー・技術 (環境、エネルギー、技術史等)	左記5分野各6問 30問出題 各5分野各3問 計15題解答	1時間	50%以上
適性科目	技術士法第四章(技術士等の職務)の 規定の遵守に関する適性	15問出題 全問解答	1時間	50%以上
専門科目	当該技術部門に係る基礎知識及び 専門知識を問う問題 (建設、機械、電気電子、化学、農薬等々 の20分野)	35問出題 25問解答	2時間	50%以上

データで見る会員情報

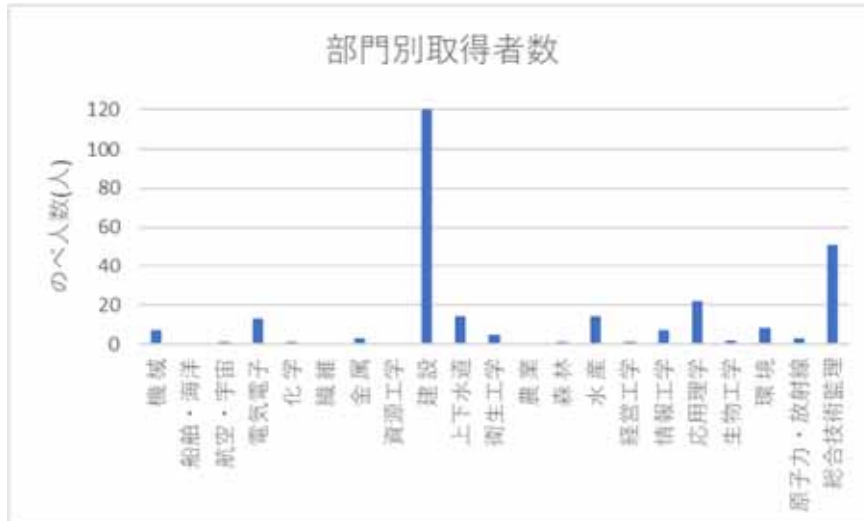
1. 会員数は 203 名（技術士 199 名、技術士補 4 名）。
2. 会員のうち、院卒は 34 名、学部卒は 169 名、男性は 198 名、女性は 5 名。
3. 会員の出身学科（学部）
4. 都道府県別会員数

	学 科	人 数
工学部	応用理学科	3
	精密機械工学科	1
	金属材料工学科	2
	経営工学科	1
	建築学科	7
	原子力工学科	2
	光工学科	1
	工業化学科	4
	航空宇宙学科	4
	制御工学科	1
	生産機械工学科	3
	通信工学科	2
	電気工学科	4
	電子工学科	3
	土木工学科	54
動力機械工学科	3	
小計	95	
海洋学部	海洋土木工学科	43
	海洋科学科	5
	海洋工学科	11
	海洋資源学科	28
	水産学科	10
	地球環境科学科	1
	小 計	98
開発工学部	生物工学科	1
九州東海大学	土木工学科	1
情報工学部		1
第 2 工学部	機械工学科	3
	電気工学科	1
理学部	情報数理学科	2
日本大学理工学部	土木工学科	1
総 合 計		203

都道府県別	取得者数（人）
北海道	9
宮城県	9
福島県	4
茨城県	6
栃木県	1
群馬県	1
埼玉県	7
千葉県	5
東京都	72
神奈川県	26
新潟県	6
山梨県	1
長野県	2
岐阜県	1
静岡県	6
愛知県	4
滋賀県	1
京都府	1
大阪府	9
兵庫県	2
岡山県	2
広島県	7
山口県	1
香川県	2
高知県	1
福岡県	10
熊本県	2
大分県	2
宮崎県	1
沖縄県	2
合計	203

（日大理工学部の方は卒業後東海大学大学院に入学）

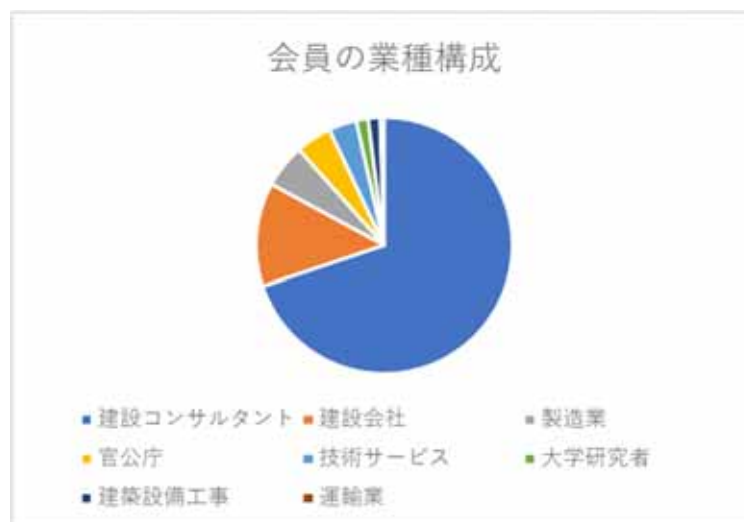
5. 会員の部門別取得者のべ人数



6. 会員の年齢構成



7. 会員の業種構成



(2021年1月24日時点の会員名簿に基づき、データ整理を行った)
(久一 博世 記)

<役員紹介コーナー>

東海大学望星技術士会役員に新たに今村さん、桜井さん、圓山さんが加わりましたので紹介させていただきます。

今村 均

(いまむら ひとし)

海洋学部海洋土木学科 1982 年卒
建設部門 (建設環境) 第 63142 号

日本海洋コンサルタント (株)

技術本部・計画環境グループ部長



小学生のころは、テレビが大好きな少年であった。特に、ジャック・イブ・クストー (フランスの海洋学者で、潜水用の呼吸装置スクーバ (商品名:アクアラング)の発明者として知られ、水中考古学を始めた人物)が、調査船カリブソ号に乗って世界中の海を探検する、テレビ・ドキュメンタリー番組『驚異の世界・ノンフィクションアワー』に魅了された。

その少年は中学生になっても海への憧れを抱き続け、東海大学には当時、唯一無二の海洋学部があり、その学部以外への進学は眼中に入らなくなってしまった。高校受験では東海大相模と神奈川県立厚木高校を受験し、両校に合格したが、親の勧めもあって取り敢えず厚木高校に進学した。大学受験でも海洋学部への憧れは募り、遂に東海大学に入学することとなる。

大学生活は、沼津校舎(当時は教養 1・2 年生)では外洋帆走クルーザーのクルーに勤しみ、清水校舎(専門 3・4 年生)では一人乗りディンギーに励んだ。卒論では、水産土木の授業に興味を抱いたので、水産庁の水産工学研究所(茨城県波崎)で外部研究を行い、アワビ幼生と流れの関連性からアワビ着底施設を研究した。

就職は、五洋建設に入り技術研究所で湧昇流(ゆうしょうりゅう)の発生構造物の研究・開発に就いた。その後も 20 年以上、主に技術研究所で水産関連施設や人工干潟等の沿岸環境の調査・研究等を担当した。その後、当時の研究所所長が現会社の社長になり、また、出向先(港

湾局の外郭団体)の常務が副社長になり、両手両足を引きずられる形で現会社に転職し、建設コンサルタントとして 20 年を迎えるに至っております。仕事では大学の諸先輩方と一緒にする機会が多々あり(石を投げれば海洋学部)、この度、望星技術士会の一人の木っ端役員として、大学に恩返しすべく、後輩への還元に勤しむ様にとの拝命を受ける次第となりました。コロナ禍ではありますが、会員の皆様、何卒、宜しくお願い申し上げます。

桜井裕一

(さくらい ゆういち)

工学部土木工学科 1982 年卒業
建設部門 (建設環境) 44795 号
さくらコンサルタント&エンジニア オフィス 代表



本年度より役員を務めさせて頂いている桜井でございます。改めまして宜しくお願い致します。私の学生時代は、1, 2 年の教養課程は札幌校舎、3, 4 年の専門課程は湘南校舎と代々木校舎に通い、部活動は硬式庭球部に所属したこともあり、本当に濃い学生生活を過ごしたなど記憶しています。

卒業後は、道路会社に 5 年程務めた後、造園会社でその後の技術者人生を過ごすこととなります。その当時、設計志望だった私は造園という一品一産の仕事に対して心を揺さぶられたことが転職の動機でした。技術者として今まで多くのプロジェクトに参加しましたが、中でも印象深かったのは長崎県佐世保市で計画されたハウステンボスプロジェクトに携われた事です。当時としては日本でも最大規模のプロジェクトだったかと思えます。

技術士の資格は運がよく 2000 年に初トライで取得することが出来ました。技術士会での活動では青年技術士懇親会で CAFE0-21 in INDONESIA に参加した際、東南アジア諸国の Young Engineers と交流で、各国政府が技術者

の育成に力を入れていることを実感したことです。

今回、望星技術士会の役員として活動するにあたり学生の皆さんに技術士を目指す重要性を伝えることが出来ればと思っております。2020年度はコロナ禍の影響で本来の大学運営が出来ず、学生の皆さんや関係者の皆さんにとって不本意な一年だったかと思えます。一日も早く本来のキャンパスライフを過ごせることをOBの一人として切に願っております。

圓山裕史

(まるやま ひろし)

工学部電子工学科 1994年卒業
情報工学部門・電気電子部門
88201号
NTTコミュニケーションズ
BS本部SS部担当課長



はじめまして。今年度より望星技術士会幹事の一員となりました圓山です。

一昨年、20数年ぶりに望星祭を訪問し、そこで望星技術士会の方々の活躍、大学技術士会としての活動がなされていることを知り、継続的研鑽の一貫として活動に参加させていただきました。よろしくお願ひします。

私の専門は情報システム、情報通信システムの企画、設計、開発です。卒業後一貫して業務を通じ、研鑽に励んでいます。SI企業のSE及びそのマネジメントを専門としています。

この分野は、非常に技術革新が早く、変化に対応していくことがエンジニアとしてとても求められる分野です。また、顧客の業務革新等、ビジネス企画的な要素を大きく求められるところは特徴的です。これまでの20年、コンピュータハードの革新、アプリケーションの多様化から集約化、スマートデバイスの普及と活用によるビジネスモデルの変化、無線、光など通信速度高速化による情報量増大と、大きな流れの中で1分野のエンジニアリングの枠を超えて活動してきました。DXという社会変革により、物か

ら情報へ主役が変わり続けています。国の政策であるデジタル人材の大量育成への展開を鑑みると、この流れは続くでしょう。

技術士としては単にアカデミックに情報分野の技術を追求することだけではなく、実ビジネスへの寄与を目的として、情報システムのアーキテクチャ設計、活用した開発プロセスとサービス活用という課題への対応が求められます。またそこには情報ガバナンス、セキュリティという運営上の要素を複合的に含んでいます。これらは強く倫理観を求められる場面が散在します。ますます研鑽が必要と感じています。

諸課題はありますが、望星技術士会の活動を通じ、自らの技術士としての研鑽だけでなく、多くの若者の成長に寄与できることを期待して、今後活動していきたいと考えています。

<編集後記>

- ◆昨年まで1人で編集作業を行っていましたが、本年より5名で編集を行うようになり幅広いアイデアが出るようになりました。(星崎)
- ◆新型コロナが猛威を振るう中で行事も少ない状態ではありますが、皆様のご協力のおかげで充実した会報になったと思います。(庄司)
- ◆Web会議が増えてきました。当会報の編集会議も対面ではなくZoomで行ってます。(綿貫)
- ◆慣れない編集、ご迷惑をおかけしました。引き続きよろしくお願ひします。(圓山)
- ◆久しぶりの湘南校舎はとても静かでした。一日でも早く賑やかな学び舎に戻れることを祈っています。(畑)

発行元：東海大学望星技術士会

ホームページ・アドレス

<http://engineer.bousei.u-tokai.ac.jp/>

アクセス用QRコード



